



「三方よし」で地域を幸せにする

このたびの「令和6年能登半島地震」により、被害を受けられた皆さまに心からお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。

今年7月、新しい紙幣が20年ぶりに発行されます。先月、彦根市にある国立印刷局彦根工場を訪れ、世界初の技術が施された新紙幣を拝見しました。傾けると肖像が立体的に浮かび上がり、動いているように見える3Dホログラムや、肖像の背景にとても緻密な模様が施される「高精細すき入れ」など高度な技術への挑戦に感嘆しました。また、額面の数字を大きくするなどユニバーサルデザインにも配慮が行き届いています。

新紙幣のうち、1万円札は「日本資本主義の父」と称される渋沢栄一に変わりますが、実は滋賀県にもゆかりのある人物です。実践的な倫理を説いた陽明学に親しんだ渋沢は、「近江聖人」と呼ばれた江戸時代初期の儒学者、中江藤樹を「穏健で実行を貴ぶ」人物と評し、大正10（1921）年に請われて藤樹神社創立協賛会の顧問に就任しました。自ら寄付を行い、財界にも広く寄付を呼びかけるなどして創立を支援し、終生その職にありました。

「日本陽明学の祖」といわれる藤樹は、郷里（現・高島市）に私塾を開き、近郷の人たちに教えを広め、儒学や医学を講じて多くの門人を育てました。キリスト教伝道者の内村鑑三は著書『代表的日本人』で「理想的な学校教師」と紹介しています。藤樹の教えは「人を敬い思いやりの心をはぐくむ人間形成にとって大切なもの」

として、現在も高島市内の教育現場で語り継がれています。

当行は先月、『「三方よし」で地域を幸せにする』をベース（存在意義）と定め、今後5年間の経営戦略を示す第8次中期経営計画を発表しました。お客さま、地域の持続可能な成長をデザインする「インパクトデザイン」、経営基盤の強化に取り組む「ベースフォーグロス」、人的資本の最大化を進める「ヒューマンファースト」。この3つの基本戦略をエンジンとして、「地域を幸せにする好循環」を生み出していきます。お客さまの課題解決や地域の成長に資する投資を行い、経済活動を活性化させることで、ビジネス機会は拡大します。そのなかで、当行グループの稼ぐ力を向上させ、さらなる地域への投資につなげていきます。

このような「地域を幸せにする好循環」を創出するために、地域の未来をデザインできる人材を育てていきたいと考えています。

人こそが企業価値の源泉であり、人材への投資を優先事項と考える「人的資本経営」は企業経営の要諦です。そして、人が育ち、生き生きと活躍できる職場環境には、信頼をベースとした企業文化の醸成が重要だと考えています。変化する時代には、失敗を恐れずチャレンジする意志と行動が一層求められており、その前向きな姿勢を称賛する環境が挑戦を後押しし、信頼につながります。当行は8次中計の下、気持ちも新たに、「挑戦」と「称賛」の文化をつくり、藤樹の私塾が有為な人材を続々と輩出したように、当行グループで育った人材が地域を幸せにすることに努めてまいります。